

北秋田市教育委員会
平成29年10月定例教育委員会会議録

1. 招集年月日 平成29年10月26日(木)
2. 招集場所 北秋田市文化会館 会議室
3. 開会及び閉会 開会：午後1時 閉会：午後4時20分
4. 出席委員 教育長：佐藤 昭洋 委員：永井 高道
委員：佐藤 正俊 委員：吉田 美樹
委員：小林 真
5. 欠席委員 なし
6. 出席職員 教育次長：松橋 久司 総務課長：金澤 聡志
学校教育課長：佐々木 馨 生涯学習課長：宮腰 正樹
スポーツ振興課長：水木 正範
総務課総務係長(書記)：畠山 久子
7. 傍聴者 なし
8. 報告事項 **【教育長報告】**
 - ① 教育長動静
 - ② 国立市教育委員会視察報告
 - ③ 平成29年北秋田市議会9月定例会(教育委員会関係)
一般質問、決算特別委員会総括質疑**【各課長所管報告】**
 - ・総務課
 - ① 10月行事報告及び11月行事計画
 - ② あきたリフレッシュ学園
 - ③ 教育留学推進事業
 - ・学校教育課
 - ① 10月行事報告及び11月行事計画
 - ② 学校の状況
 - ③ 第11回理科・社会科研究発表会
 - ④ 平成29年度北秋田市通学路安全交通推進会議

- ・生涯学習課
 - ① 10月行事報告及び11月行事計画
 - ② 第12回北秋田市文化祭
 - ③ 第12回浜辺の歌音楽祭
- ・スポーツ振興課
 - ① 10月行事報告及び11月行事計画

9. 附 議 案 件 (1) 議案第27号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

10. そ の 他 (1) 平成29年度北秋田市一般会計補正予算(第6号)

11. 会議録

佐藤教育長	ただいまから、平成29年10月定例教育委員会を開会する。はじめに署名委員の指名をさせていただく。本日の署名委員は吉田委員にお願いします。
吉田委員	はい。
佐藤教育長	次に、2番「9月定例教育委員会の会議録の承認」について、事前に事務局より配布されている会議録の内容に訂正等があればお願いします。何かありませんか。
全委員	なし。
佐藤教育長	では訂正等がないようですので、会議録については承認とさせていただきます。 続いて、3番「諸報告」。(1) 私、教育長の動静報告について。 10月1日大館桂桜高校竣工式。次長代理出席。本市の子ども達も入学しており、厳粛に行われた。2日市議会本会議、補正予算追加案件。4日決算特別委員会総括質疑。平成28年度教育委員会の決算は特に指摘がなく、承認していただいた。5日リフレッシュ学園保護者面談は、能代の子どもの新規入園希望者。同日、伊勢堂岱遺跡整備検討委員会。これまで何年間か行ってきた会議であるが今回が最終の会。委員長の小林達雄先生など大学教授にも入って意見をいただいた。大きな提言として、縄文館を無料にしたらどうか

佐藤教育長	<p>という意見をいただいた。博物館長の経験者からのご意見だったが、法によると、博物館そのものの料金が無料となっているということだった。市の施設として博物館の対象となると浜辺の歌音楽館がある。今は有料であり、今後検討するが、浜辺の歌音楽館を無料にするとすると縄文館もするべきなのかどうか。あとで教育委員としてのご意見をいただきたい。</p> <p>10月6日鷹巣中学校合唱祭。文化会館は音響効果がよく、子ども達の声が響き渡った。保護者、地域の方の参加が非常に多かった。同日県文化財保護協会研修会。小林達雄教授を講師として秋田県全体の関係者の会議。7日小学校学習発表会。8日中学校文化祭。阿仁中、これまでの8つの郷土芸能発表が3つ。子ども減ってきた関係。そのほか新しく祇園太鼓。森中は暗幕を引いた中で前田獅子踊りを披露。大変盛り上がっていた。合中のふるさと讃歌に感動した。市民の皆さんにもいつか聞いてもらいたい。同日関東からのリフレッシュ学園入園希望保護者と子どもとの面談。10日市議会9月定例会本会議。前回の定例教育委員会で報告のあったリフレッシュ学園事故について報告した。11日大分県宇佐市議会、リフレッシュ学園視察では、積極的な質問を受けた。12日東北ダム湖サミット。関係の各首長の会議。青森県西目屋ダムでの水上バスを活用した地域興しを行っている同村長の話を知ってきた。東北総体実行委員会は、フェンシング東北総体の最後の会で決算を行った。出場した東北大会で秋田県が総合優勝、国体では男子2位、女子3位。国体でも活躍した。14日大館北秋田PTA連合会研修会。15日小学校学習発表会で7校を訪問。各校とも工夫していて参加者が張り切っていたのが良かった。地域の方々も多く来ていた。16日合川寿大学行事。スポーツとレクの集い。同日教育委員会点検評価会議。18日北教育事務所長学校訪問。県義務教育課長と国立教育政策研究所の統括研究官 千々布敏弥氏が同行しての訪問。秋田県と北陸を比べて学力の本を何冊も出している方が是非本市の小中学校を見たいということで来た。特に南中の生徒に感激していた。掃除は福井の無言清掃が知られているが、南中生のきれいに清掃する様子を見てもらった。授業についても深い学び、アクティブラーニングができていると。南中は以前、厳しい状況であったが良好な現状である。19、20日東北都市教育長協議会役員会。情報交換してきた。78人の子どもが亡くなって遺族が裁判をおこしている大川小学校を見てきた。7年経ってもお参りの方が来ている。観光バスの受け入れはないようにしていたらしく、観光バスでの乗り入れは私達が初めてであったとのこと。海から3.5キロの所。まさかここまで津波がという思いは誰しも思うのでは。判断の苦しいところを他の教育長も感じていた。大変勉強させていただいた。21日理科社会科発表会。子ども達は生き生きと発表し、中身の深いものもあった。反省点は来年度に活かしていきたい。鷹小3年の理科発表では、物理の重力に係る内容で指導助言に苦労している場面もあった。保護者がチャートを手伝ったと思うが漢字の読み間違いもあり、指導者がどこまで関われるかも考えていけ</p>
-------	---

佐藤教育長	<p>ればと思った。同日、市産業祭での小中学校向け企業博覧会。地域企業が参加した企画。産業祭への子どもの関わりが少ない中で、多くの子ども達が参加して、企業の勉強をする機会になって非常によかった。企業の方の刷毛を作る伝統芸能に近いような技術を見ることができて、子ども達がびっくりしていた。こういった所を膨らませて企業体験に繋げられればと思った。同日、大阿仁未来フォーラム。講演会では、地元の大根をガッコにして付加価値をつけて売り出す企業にすることもあるという提案もあった。22日大阿仁フェスタは大阿仁小学校学習発表会。教頭が頑張っている様子が見られた。PTAと一緒に先生方が参加して合唱発表し、それを地域の方々が聞くというように、学校が地域に溶け込んでいて大変良かった。地域と学校が一つになっている学校だとつくづく感じた。23日から教育委員の学校訪問が始まったので、よろしく願います。24、25日の国立市訪問の報告は後ほどさせていただきます。それでは、私の動静報告について皆様から質問ご意見を伺いたいが何かあるか。</p>
全委員	なし。
佐藤教育長	<p>特に無ければ次に進む。(2) 国立市教育委員会視察について報告する。24日25日の二日間の日程で私、永井委員、佐藤委員、25日に吉田委員が合流して視察を行った。24日は総合教育会議と定例教育委員会を視察させていただき、懇談会の場を設けていただいた。国立市は委員が5名。うち1名欠席であった。総合教育会議は、来年度予算編成にむけて委員から意見をもらう形であった。具体予算ではなく、市の教育をどう進めるかという骨の部分の話し合いを受けて、事務局が予算編成する。11月末には、市長が教育委員から予算についてのアドバイスをもらうという機会もあるようだ。定例会では9、10月の報告だったが非常に事務局の年齢層が若く40代前半の課長が並んでいて、質問に対しても各課長が積極的に答えていた。次長が総合司会であった。うちとはやり方が違った。取り入れられるところは取り入れていきたい。11月3日に北秋田市長が国立市市政50周年に出て、今後の国立市との交流について調印が行われる。そこで、この後どんな交流ができるかという話し合いになると思う。今回の我々の国立市教育委員会訪問では、来年度は国立市の教育委員が北秋田市に来ていただくということで検討することであった。来年度の予算編成上、そういった形で進めていただくことになる。本市では、来年度は、小・中の校長教頭教諭、事務局2名程度が、国立市の授業に参加するなどとして、今後どういった交流ができるのかについて話し合いを持てるよう予算要求をしていきたい。実際の交流は次年度の31年度頃でないかと考えている。向こうの教育長もあまり性急にならないでじっくり進めたいスタンスでいる。国立訪問について、付け足しなど願います。</p>

永井委員	<p>大変ハードなスケジュールで心配だったが対応する事ができた。首都圏の方々のスピーチが早くて前半は疲れたがだんだん慣れてきた。国立市とは合川町時代からの長い交流があって今回の訪問に繋がっている。国立市はいろんな意味で期待感を持っていて学びたいという姿勢が感じられた。授業にも参観させていただいたが教員の若さがよくにじみ出ているし、若い先生方の指導に子どもが食らいついていると感じた。ディスカッションでも内容の濃いものであったが、ただ指導力はベテラン教員の多い本市の方が少し先輩のように感じた。交流していけば、双方にとってプラスになると思うが、かなりポイントを絞って研修をしないと非常に疲れてしまう面があると。それを避けるために、宿泊を伴うスケジュールを作らないといけないし、あきた北空港を想定した旅程も検討してほしい。他にもあるが、佐藤委員から。</p>
佐藤委員	<p>教育委員会会議の傍聴に時間をかけなくても、教育委員会の所管する施設をたくさん見せてもらいたかった。その中で、学校1校、給食センター1施設を見せてもらった。古くなった給食センターを建て替えないといけないと国立で言っていたが、土地が無くて難儀していた。1校だけでなく、もっとたくさんの学校を見たかった。もしこれから、小中、教育委員会事務方も訪問するとなれば、そういう所も見て勉強したらいいと思った。</p>
吉田委員	<p>給食センターの話では、献立を立てるときにも、各校から保護者の代表が1名ずつ入っての検討委員会があって、そういう3つくらいの検討委員会があると聞いてきた。都会ならではの部分がよく見えた。そう考えると、北秋田市はすごくうまく栄養士さんが進められているので幸せだと感じた。保護者が心配して、1キロ以内でも監視カメラを付けさせると言ったりすることもあったなど、驚いた。いろいろな意味で北秋田市は恵まれていると実感した研修だった。</p>
佐藤教育長	<p>通学にしても、1年生の親から、うちの子に15分も歩かせるのかというクレームが来るという話も出していた。</p>
吉田委員	<p>いくら歩いても20分くらいのような。だから基本徒歩で自転車通学はないと。道路も狭い。しかも子どもも多いので、歩道から子ども達があふれている。</p>
永井委員	<p>本市の不登校出現率の低さに驚いていた。</p>
佐藤教育長	<p>小林委員から質問などは無いか。</p>

小林委員	教育に対する親の関心というのは両極端なのでは。すごくある人と全く関心無い人がいる。
永井委員	家庭学習に関しても、北秋田市とは全然違うと感じた。
佐藤教育長	授業を公開した学校は、学年が42人位で、学級は21、2人でやりやすいところで一番落ち着いた学年と校長が言っていた。本地域の研究会では、授業についてずばっと指摘される場所だが、視点が違っていると感じた。7月の訪問の時に本市から提示した授業のDVDを見て、向こうの教育委員が秋田は家庭教育、ノートもしっかりしていると話をしておられた。北秋田市では生活サポートという形で支援しているが、国立市はスマイリースタッフと呼び、11校に21人。北秋田市は15校に31人。国立の方が児童生徒数が倍以上なので、北秋田市の支援の多さにびっくりしていた。特別支援学級や通級授業をやっているところもある。北秋田は通級の学校に子どもが出向く形だが、東京都のモデル事業として、今年から国立市がモデル市となり、先生が対象児童のいる学校に出向く方法。この点は私達も研究していかなければならない。ただ大きく違うことは、北秋田市は1回毎に先生の旅費がかかってくる距離である。あちらは近いので自転車で行ける。
永井委員	国立市は北秋田市の面積の140分の1。8平方キロ。
佐々木学校教育課長	鷹中学区くらいだと思えば。
佐藤教育長	このあと、来年度に国立市が来たときに懇談しながら話ができると思う。
永井委員	非常に好意的に迎えていただいた研修であった。
佐藤教育長	課長達には来年度の事務方の交流の打合せをよろしく願います。今回、教育委員会として次の動きに繋がっていくことになると思うので、それを期待している。 次に移る。(3)平成29年北秋田市議会9月定例会について報告する。9月定例会は決算特別委員会を含み9月12日から10月10日までの29日間の会期において行われた。教育委員会関係については資料1、2にまとめており、資料2「平成29年度北秋田市一般会計補正予算(第6号)」については次第5 その他で各担当課長より報告するが、私から資料1「一般質問、決算特別委員会総括質疑」について報告する。一般質問については、4名の議員からの質問に答弁している。決算特別委員会総括質疑では3名の議員の質問に対して答弁している。

佐藤教育長

<資料1 説明>

福岡議員の学芸員増員に関する質問は合川でのタウンミーティングの時に一般の方からも指摘を受けていたもので、浜辺の歌音楽館は博物館なので学芸員を置かなければならないというもの。浜辺の歌音楽館は音楽の分野の博物館でなく、成田為三の歴史に関わる歴史博物館である。博物館として登録するのは県なので、県が認可したときに、学芸員は常駐しなくても役場にいる学芸員が兼務する配置で、そこに、非常勤を置くという計画で県が認可している。博物館としては認可されているので、問題ない。整備検討委員会でも、学芸員1名では1の仕事しかできないが2人なら3くらいの仕事ができるので増やしたらよいと大学の先生からアドバイスをいただいたが、今の方法でも間違っていない。今後私達が検討していかなければならない。今は2名の学芸員がいて、一人は伊勢堂岱遺跡を専門にやっていて、もう一人は浜辺の歌の方を担当しているが、それ以外の業務が非常に多く、彼らが学芸員の仕事を専門にやれるように改善していくと回答し、今後、非常勤採用のし方についても考えながら、故障しているロボットの在り方も考え、館をもっと機能的にアピールできないか、審議会にも相談しながら進めていければ。

久留嶋議員の地産地消の取組については回答通り。米は市内産の米が100%。全ての食材の22.7%が市内産だが、ここで取れない魚もあるので22.7%が低いか高いかは微妙。県で発表している地産地消の%は、県指定の40品目の食材であって、全食材の数字はだしていない。今の市の給食センターには全食材の北秋田市の割合と、どうしても市でできない食材、魚とかをはっきりさせての数字を出した方を検討させている。地産地消を進めて行きたいが、農家からの調達が厳しく、高齢化しているので、ほしい量を準備できないという問題もあるようなので、地元の方々とも連携を図っていきたい。もう一つは成人式の在り方について。参加者の割合については例年並みであるし、新成人が関わりを持って運営した式典なので良かったと思う。

吉田議員のふるさと教育について。主な学習内容は、資料としてまとめているが、各学校ともしっかり取り組んでいるということ。次の、教育長の教育方針については6月議会に話したことをコンパクトに答えた。学力テストについては、県平均と比較するなどして答えている。社会教育については、まずこの3月策定の社会教育中期計画の基本理念のもとにやっていくと回答した。

大森議員の移住定住対策については、現在、県と連携して進めているという回答。質問の意図として、小規模の大阿仁小学校とかにも呼んだらどうかというベースがあったようだ。今は合川小学校しかやっていないので。教育留学、短期長期ともそこでしか行っていないが、広げるとすると様々な調整があって難しいと思う。埼玉県共栄大学と連携して行っている教育実習

佐藤教育長	<p>は、大阿仁小、前田小、合川小と3校に入れている。来年は大学の先生の話だと7人の教育実習生を予定しているようだ。鷹巣小地区にも入れられないか検討しているところ。</p> <p>中嶋洋子議員のスポ少との関わり方については、決算特別委員会総括質疑でも質問された。議員からは紹介議員として請願が議会に出されている。その前段の質問であったと思う。これは保護者の相談役として教育委員会にも問題に関わってほしいという主旨。スポーツ振興課でスポーツ少年団の事務を担当しているところだが、学校と連携を図っていきたいと回答をしている。問題が出てきた原点は、昨年度、新人戦の時に鷹巣南小と中央小が人数が少なく合同チーム青鷹ブルーホークスを作って出場した。それが4月になったら部員が増えて、それぞれ単独チームができる人数になったが、合同チームでやりたいと要望が出た。しかし、野球協会の大会規程では学校単位で単独チームを組める時には、学校単位で出ることとある。野球協会でも大分審議したそうであったが、学童大会とナイスカップ、中川杯は出場できなかった。請願は議会で否決された。</p> <p>決算特別委員会総括質疑。資料は、質問に対し準備した答弁内容。板垣議員からの質問は当日はなかったもの。久留嶋議員のふれあいプラザの質問は、地域の大通りの活性化に繋がっていないのではというものからきている。そこを使いながらと市長から答弁している。28年度にふれあいプラザができて、交流センターや文化会館の利用が少なくなったのではないかという指摘が質問の中にあった。全体の数では減っているが、27年度の利用者数が突出していて28年度が減少したように見えている。27年は市外の二つの団体が、市外の施設を使えないため、文化会館を利用したことがある。議会の報告は以上だが、ただいまの報告に対し質問等あるか。</p>
全委員	なし。
佐藤教育長	特に無いようなので、次に(2)各課所管事項の報告。はじめに総務課からお願いします。
金澤総務課長	<p><10月行事報告> 資料のとおり。 ・10月4日 学校給食施設衛生管理訪問指導。</p> <p><11月行事計画> 資料のとおり。 ・11月10日 全県教育委員長・教育長会議。 ・11月17日 秋田県市町村教育委員会連合会第2回定期総会。</p>

金澤総務課長	<p>○別紙資料 総務課報告</p> <p>(1) あきたリフレッシュ学園。 ・利用状況 学園生 12 名。 ・体験入園 1 名。</p> <p>(2) 教育留学推進事業。 ・留学生 県外小学生 2 名、県外中学生 2 名。</p> <p>(3) その他。 ・学校給食については前回に分量ミス等の報告をしたが、10 月 17、18、19 日と各給食センターを回ってミーティングに参加して指導助言を行った。</p>
佐藤教育長	<p>ただいまの報告について質問等があればお願いします。</p> <p>補説すると、留学生中学女子 1 名は私立から来ている。中高一貫校なので高校は保証されている。</p>
佐藤委員	<p>付け加えると、親から今日メールがあつてやっぱり学校に行けない、娘は秋田に帰りたいと言っているという。私立なので、学校に留め置きたいというのが学校の方針らしい。ご両親も本人もその高校には行きたい。向こうが許せばこちらに来たいのだけれども、今学校と相談中という連絡だった。</p>
佐藤教育長	<p>高校に行くための出席日数があるようだ。リフレッシュ学園の出席日数は出席に換算されるので日数確保という考えもある。子どもは勉強もやるので合川中学校に入ったかどうかと言ってみたが、向こうの私立学校の方が授業として認められないスタンス。でも、体験入園で来た時には実際に合川中で体験学習という機会を与えている。また、仙台の小学 6 年女子も合川小学校の子と仲良く学習体験して大変意欲的な子ども。中学になってもまた来たいと言って帰って行った。</p>
佐藤委員	<p>とてもいいこと。親が迎えに来た時、大館のきりたんぼまつりに行こうと誘っても断って、リフレッシュ学園行事の遊遊ガーデンでの活動の方に参加していた。</p>
佐藤教育長	<p>他に意見等ないか。なければ次に学校教育課からお願いします。これからの報告の中で不登校などに関する内容については非公開とする。</p>
佐々木学校教育課長	<p><10 月行事報告> 資料のとおり。 ・10 月 4、18 日 所長訪問。 ・10 月 23 日～ 教育委員訪問。 ・10 月 27 日 教育支援小委員会にて校務支援システム説明予定。</p>

<p>佐々木学校教育課長</p>	<p><11月行事計画> 資料のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月8日 県都市教育長会議。 ・11月9日 教育支援委員会。 ・11月14日 県北教育長会議。 ・11月16日 市臨時校長会。 ・11月22日 市特別支援部会授業研究会。 <p>○別紙資料 学校教育課報告 資料のとおり。</p> <p><1. 児童・生徒数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月1日現在 1,838名。全体で1名減。小1名減。 <p><2. 栄光></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県中学校秋季陸上競技大会 女子共通砲丸投げ1位 鷹中三澤選手。 ・県中学校秋季ソフトテニス大会 男子団体優勝 森吉中学校。 <p><3. その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11回理科・社会科研究発表会。昨年度並み題数と人数。 ・小中学生向け企業博覧会。 ・サクソフォン上野耕平ミニコンサート。芸術大学の事業。 ・熊出没における安全確保。阿仁合小、前田小。坊沢、浦田、五味堀など出沒情報がある。 ・平成29年度北秋田市通学路安全交通推進会議。危険箇所の確認。 <p><事故報告・職員の異動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料のとおり。 <p><不登校の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料のとおり。
<p>佐藤教育長</p>	<p>ただいまの報告の中で、児童生徒及び職員の報告については、プライバシーに配慮し、非公開としてよろしいか。</p>
<p>全委員</p>	<p>はい。</p>
<p>佐藤教育長</p>	<p>それでは賛同をいただいたので非公開とする。では、ただいまの報告に質問等ないか。なければ、次に生涯学習課長から報告をお願いします。</p>
<p>宮腰生涯学習課長</p>	<p><10月行事報告> 資料のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月22日 シニアの絵本読み聞かせ講座 10回目。

宮腰生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> ・10月27日 山形県社会教育研究大会シンポジウム。 ・10月30日 全国公民館研修集会・東北地区社会教育研究大会。 シンポジウム、研究大会にて北秋田市が発表。 ・10月5日 史跡伊勢堂岱遺跡整備検討委員会。前身の調査委員会から 数え20年の活動。昨年の縄文館完成と今年度の見学環境 整備事業の終了をもって検討委員会の活動も終了した。市 長からは、今後も助言をいただきながら整備検討を続けて 行きたいとのほか感謝の言葉が述べられた。 ・10月6日 平成29年度秋田県文化財保護協会県内研修会。 <p><11月行事計画> 資料のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月7日 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム。 ・11月11、12日 縄文シティサミット in はこだて。各首長が参加。市 長、ボランティアガイド、榎本主査が参加予定。 ・パンフレット説明 10月28～30日 北秋田市文化祭 11月3日 浜辺の歌音楽祭 11月18日 池田直樹50曲リクエストコンサート 11月26日 伊勢堂岱遺跡ジュニアシンポジウム
佐藤教育長	<p>ただいまの報告に対し、ご質問ご意見など無いか。10月29日の浜辺の歌の墓前コンサートは生涯学習課の所管でないか。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>浜辺の歌音楽館事業の一環でやっている行事であり追加して報告する。浜辺の歌音楽館について、もう一つ報告してよろしいでしょうか。</p>
佐藤教育長	<p>では、生涯学習課長から。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>議会一般質問でも出ていた、浜辺の歌音楽館の壊れている成田為三先生のロボットについては、様々な意見が出ている中で、あるだけでも意義があるとか、取り外すとロボットの後ろの映像も意味がわからなくなるという意見もあるなどの声もあって、まだ課内で検討しているところ。まだ方向性は出していない。</p>
佐藤教育長	<p>審議会もある。そこでも皆さんの意見を話し合うことも大切である。何としても直らないのか。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>新しくつける考えもあるが、これから相談する。</p>

永井委員	スタートの時からしょっちゅう壊れていた。
佐藤教育長	ロボットだけでなく、成田為三先生の功績や楽譜を見に来てもらいたい。音楽で集えるとか歌って聞かせる場にするとか、リピーターがあるような管理運営をしていかないと。
小林委員	ちゃんとしたA Iのロボットなど。
永井委員	浜辺の歌音楽館のコンサートスペースでは定期的にやっている。県内各地から出演者を募ったりしているので。
小林委員	ピアノは音が出るのか。
宮腰生涯学習課長	自動演奏になっている。実際に使えるかは後で報告する。
佐藤教育長	入館料についてはいかがか。
宮腰生涯学習課長	今年夏の来館者にアンケートを行ったら適切であるという意見が多かった。結果は次回報告する。
永井委員	地域として、縄文館と比べても高いという感じがする。初期投資をしているので、その時はそうであっただろうが。
宮腰生涯学習課長	入館料 500 円。浜辺の歌音楽館の事業として、去年は雨漏りの屋根の葺き替え、今年は冷暖房設備など適切な環境整備に取り組んでいる。
佐藤教育長	その分を入館料でもらう位の入館者数ではないだろう。
宮腰生涯学習課長	年間で 1,000 人ちょっとになる。
佐藤教育長	思い切って、いつでも市民の方に集ってもらおうとすれば無料にするとか。来たい人はお金を出しても来たいという人が 100 人来ているだろう。最初から入館料が分かって来ている。
宮腰生涯学習課長	アンケート自体、入館料を下げる、無くするといった資料になるものとして行ったが、好きな人が集まっている。先日の検討委員会でも話題になったが、県立博物館も無料にしたら人が増えたという例もある。しかし、それなりの大義名分も無いといけない。

永井委員	<p>県立博物館の無料化で来館者数が増えた話もあるけれども、展示替えや補修を行っているほか、企画展を常時やってお金はとっている。無料にして、展示は10年間変わらずとなると、そういう運営していると絶対うまくいかない。有料であっても、展示内容がしょっちゅう変わっているとすれば、絶対ロコミで広がる。そういう意識を持てるかどうか。入館料をとることがマイナスとは思わない。常に更新が行われてリピーターが来るといった感覚を持たなければだめだと。</p>
佐藤教育長	<p>貴重なご意見をもらった。生涯学習課はこのあと考えて見てください。いずれ、浜辺の歌音楽館の成田為三を特化すると限度が出てくるので、何か付加していけるか、或いは地域住民のボランティアを使ってできるか、広く考えて。企画展はコンサートを呼んでくるとかを行って入場料をもらう、そっちから幾らかもらう形もできると思う。</p> <p>ただいまの報告に質問等あるか。ないようですので、次にスポーツ振興課から願います。</p>
水木スポーツ振興課長	<p><10月行事報告> 資料のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月30日、10月1日 第4回秋田25市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！男鹿大会。当市は2チーム出場。総合7位、市の部4位。来年度開催地は鹿角市。 ・10月6日 体力・運動能力テスト。後で県集計結果を報告する。 ・10月25日 バランスボール教室。計4回開催計画。 <p><11月行事計画> 資料のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月23日 スポレク・ミニテニス交流大会。今年度のスポレク最後の大会。 <p>教育長から9月議会の話があったが、スポーツ少年団に関しては、ナイスカップが少年団の交流大会の位置づけなので、出るためには学校単位の少年団登録が必要である通知を2年にわたって出しているが、出なくていいですということで団登録はブルーホークスということで合同での登録になっている。そのため大会に出られなかった。自分達も早々に出ないという意思表示をしていたのだが、どうして請願が出たのかということである。</p>
永井委員	それで取り下げたと。
水木スポーツ振興課長	はい。

佐藤教育長	<p>ただいまの報告に質問意見などあるか。無いようなので次に移るが、一旦休憩をとる。</p> <p>(休憩) 14:55~15:00 <佐々木学校教育課長 所用により退席></p>
佐藤教育長	<p>それでは再開する。次に、次第4 附議案件に移る。(1) 議案第27号教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、説明をお願いする。</p>
金澤総務課長	<p><議案第27号 説明></p>
佐藤教育長	<p>ただいまの議案説明に対し、質問や意見など無いか。報告書により、各事業について意見を願う。</p>
佐藤委員	<p>ひとつひとつやった方が進めやすい。</p>
佐藤教育長	<p>では順に進める。</p> <p><以下、報告書内容順の教育委員の意見></p>
佐藤委員	<p>あきたリフレッシュ学園事業は必要な事業。予算もかかるが県としての移住定住もある。保護者はそういう気持ちになるよう話を進められれば。</p>
佐藤委員	<p>小中学校パソコン導入事業。タブレットは各学校に入ったのか。</p>
松橋教育次長	<p>今年度で全部の学校に入った。</p> <p><小林委員 緊急患者のため退席></p>
永井委員	<p>スクールバス運行事業の運転手の高齢化の対策について。委員会として何か答えているか。</p>
松橋教育次長	<p>70歳の年齢制限があるが人が見つからず、1人70歳以上がいる。委員会としては業者に委託したいが経費がかかるため財政がうんと言わない。しょうがなく直営でやっている実態。阿仁地区はマイクロバスでなくてもタクシーで対応出来るくらい減ってきた。タクシー委託に変わっていけば大分楽になっていく。</p>

佐藤委員	委託に移行することによって、予算的には。
松橋教育次長	かかり増しになる。業者になるので。
佐藤教育長	年齢的には改善されるということか。
松橋教育次長	一方の地区の方が業者になれば、そっちに回さなくてもよくなる。ただ、阿仁から森吉の方にとというのは、なかなか難しいと思う。合川小統合の時、運転手になってほしいと声かけしたら、ごめんしてほしいと言われた。子どもを運ぶことなので責任の重さもある。断られる最大の理由。
永井委員	継続する課題である。
佐藤教育長	いずれ、退職された60代の方とか引き継いでいける方を掘り起こす事を併せて、拡大となっていると思う。検討の必要がある。 学校生活サポート事業。去年は28名、今年は30名。
佐藤委員	年々増えている。月曜の学校訪問で低学年を見たら大変そうだった。幼保の連携がしっかりすれば、もっと良く進んで行くと思う。連携しあって育てていくということは早いうちから実施して欲しい。
佐藤教育長	これは教育委員会の課題でもある。事業だけでなく。集団で子ども達を動かしていて、最近の保育の方向は遊びを中心にしていて、夢中になっている遊びを止めるなという保育の方向になっている。学校に入学して、急にピシッとやれといってもそれは無理がある。少しずつ慣れて、1年生で入ってもそういう見方ができるソフトランディングができるように、なんらかの対策を立てられるように。難しいのは私立の幼稚園があるから、その連携の難しさもある。小学校と幼稚園の幼保小の連携を何らかの形で出していくことを考えると、このサポートに抑えが効くのではという意見であったと思う。
松橋教育次長	東小学校入学式ではびっくりした。あそこの保育園ではそうなのかと。ただ3月の卒業式になるとピシッとなるので。1年で先生の指導が浸透して落ち着いていくのだと思う。ただ合川小学校の状況は心配なところがある。
佐藤教育長	子どもの質も変わってきている。
永井委員	今、学童保育関係では年々状況が厳しくなって、支援員の大変さも拡大している。児童館館長時代、鷹巣西小学校と情報交換がうまくできていたが、

永井委員	<p>そうでない管理職もいたりして、情報交換を必要という意識を持たない上司によっては情報がこなかったりした。うまく子どもを見ることができない。情報交換はきちんとやっていないと。そういう状況をオープンにして、学校関係者と情報交換したらいい。実態調査など。</p>
佐藤教育長	<p>それは児童クラブのことですね。</p>
永井委員	<p>そういう子どもが1年生で入ってくる時にいろんなところから情報収集は必要である。総合的にやっていかないと。</p>
松橋教育次長	<p>今は、どこの小学校にもサポートを付けないといけない状態だと。永井委員のいうとおり、情報は大事。学校では情報を仕入れているが実態は見ないとわからない。早めに対策しないとこの間の様な状態になる。</p>
佐藤委員	<p>連携しやすい環境にはある。合川小や東小は保育園と近い位置にある。情報交換はできる。しっかりやってみたらどうか。</p>
永井委員	<p>就学時健診のときばかりでなくて。</p>
佐藤教育長	<p>校長は多分保育園入園式に招待されていっている。また、校長がふらっと保育園に行ってみることで状況がつかめて改善に繋がる。上小阿仁は県の幼保の指導主事を使ったり、保育園の先生が1週間学校に来て入学したての子どもの様子を見たりして、或いは学校の先生が保育園に行ったりとか実際にやっていた。そういったところをどこまでできるか。事務所の幼保指導主事とも連携して考えてもらって、手立てを打てることをというところでまとめていきたい。</p>
佐藤委員	<p>旧合川北小に行った時、学校内が整理されていない。統合時に先生方が整理していない。</p>
松橋教育次長	<p>北小だけの状況である。いくらか整理したが。</p>
佐藤委員	<p>まだ使える備品もあるが乱雑に散らかりっぱなし。</p>
佐藤教育長	<p>備品は入札というか引き取ってもらったりしたのでないか。</p>
松橋教育次長	<p>市の機関、地元の自治会で呼びかけて行って残ったもの。</p>

佐藤委員	手をかけて直せば使える。買えばいいという感覚がある。備品には多額をかけているのだから、もう少し大事にするところをみんなで考えていかないと。学校でそういう考えでいると教育委員会も楽になる。
松橋教育次長	似たような事例ではあるが、保守の方で。プリンターの点検報告書を見ると、プリンターの不調で業者を呼び出した理由が、電源が入ってなかったと。年間契約を止めてスポットの契約にしてと財政から指摘があって、翌年からスポットになった。そうしたら、不調の連絡は一度しか無くなった。
佐藤教育長	いずれ備品の使い方は、このあと校長等通じて指導していく。評価についてはこのままで。旧合川北小には自分もいってみたいと。
金澤総務課長	不審者が入って、ある机全部の引き出しがあいていた。
松橋教育次長	この間も裏口の非常階段のところの鍵が開いていた。
佐藤教育長	定期的に廃校は壊すまで見て回って。私達の管理である。
永井委員	公民館事業。学識経験者の意見の、全国的に公民館が軽視されているというのはどういうことをいっているのか。
宮腰生涯学習課長	地方の認識の違いが大きいと思われる。都会だとカルチャースタイルにあった選択肢もたくさんあって、地域密着型というよりも自分の生活を中心とした講座に通える。公民館をあてにしなくても選択肢があるということ。田舎はそういう場はない。一般の方を対象にしたものとしては、こういう公民館活動が中心になる。都会と田舎の認識の違いと思われる。ここでの公民館の役割は重要である。
佐藤教育長	ここに記載があるのは学識経験者の意見である。私達事務局の認識ではない。内容は、本市は非常によくやっているということである。
永井委員	どういう状況からのコメントであったのか。
佐藤教育長	公表するため確認する。農林業振興センターもあいターミナル等もある。
宮腰生涯学習課長	どれも公民館事業だが、建てた時の事業名がそうであるため、分けた事業であげている。

佐藤教育長	<p>これは学識経験者が何かベースがあって意見を述べたと思うのだが、全く私見で述べたのか確認していく。</p> <p>陶芸ハウスとあいターミナルは評価が低く厳しさがあるが必要性は高いとある。生涯学習課は課題に取り組んでいかないと。</p> <p>胡桃館遺跡。倉庫に入れてある木簡にカビらしいものが見られて調査している。</p>
佐藤委員	<p>すごい財産である。ただ倉庫に眠っているのはもったいない。おそらく多くの方は知らないと思う。</p>
永井委員	<p>県立博物館並みに展示や保存に空調施設などを整備して。そうでないと今のような状態に。</p>
佐藤教育長	<p>伊勢堂岱遺跡が一段落した段階で次にこちらの方も方向性を見定めていく方向である。文化庁からも調査など指示がきている。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>着手すると大事業になる。</p>
佐藤委員	<p>まだ伊勢堂岱のものもたくさんある。他にもばらばらとあるものも一箇所にまとめて展示するという場所もなかなかないと思うが、ちょこちょこことやらずに、お金をかけて良いものをしっかり作って財産を残す方向になるといい。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>いざ手をかけると市レベルでは難しい事業。県、国が中心になってやらないととても及ばない規模と予想する。</p>
佐藤教育長	<p>世界遺産登録を一つの目途にして契機になれるかわからないが、次の段階を考えていければ。</p> <p>市民プール事業。市民プールは利用者が増えている。</p>
永井委員	<p>高齢者の利用者から高い評価を得ている。</p>
水木スポーツ振興課長	<p>若年層、働き盛りは利用する時間がない。</p>
佐藤委員	<p>リフレッシュ学園でもよく利用させていただいている。私達も一緒に泳いでいる。</p>
永井委員	<p>薬師山スキー場管理運営事業。降雪の関係で利用減。</p>

佐藤教育長	グラフについて。縦軸の目盛りの関係でずいぶん減少しているように見える。縦軸の目盛りの取り方を考えるように。
佐藤委員	スキー大会等補助事業。スキー発祥の地なのだが、どうしたらいいものか。大会数も少なくなってきた。中体連と話は。
水木スポーツ振興課長	中体連とは話している。どういうふうに行うか話していかしはできない。
佐藤教育長	全般にわたって見ていただいた。それでは、議案第27号は承認としてよろしいか。
永井委員、佐藤委員、吉田委員	承認。
金澤総務課長	先ほどの公民館事業の学識経験者の意見の表現は確認させていただいて、報告という体制をとったらよろしいか。
佐藤教育長	表現はこちらでお任せしてもらってよろしいか。
全委員	よい。
佐藤教育長	それでは次第5番 その他に移る。(1)平成29年度北秋田市一般会計補正予算(第6号)について、各所管課長より説明する。では、資料2 一般会計補正予算(第6号)について、総務課長、生涯学習課長、スポーツ振興課長の順に議決した内容を説明願う。
金澤総務課長	<資料2 説明>
宮腰生涯学習課長	<資料2 説明>
水木スポーツ振興課長	<資料2 説明>
佐藤教育長	ただいまの補正予算については議会に承認いただいたものであるが、質問など何か無いか。無いようなので、次に(2)第2回北秋田市総合教育会議の開催について、を事務局から願います。

畠山総務係長	第2回総合教育会議は、11月29日水曜日 午後1時から開催。会場は市民ふれあいプラザコムコム大研修室。そして、引き続き午後3時から同じ会場で、11月定例教育委員会を開催する。後日正式に通知する。
佐藤教育長	総合教育会議のテーマは何か。
畠山総務係長	今年度上半期の事業に対する評価等になる。昨年度と同様の内容で進めさせていただきたい。今年は教育大綱の生涯学習編が変わっている。
佐藤教育長	来年度の予算に向けてということではなくて。
畠山総務係長	予算に向けてではない。
松橋教育次長	総合教育会議の意見交換の中で意見や要望としていただく。
佐藤教育長	それでは次に(4)その他であるが、何かあるか。では、ここで私から。国立市の定例教育委員会でいいと思ったのが、定例教育委員会が終わった後に、次回の定例教育委員会の議題について説明する時間がある。懇談会と称して、オープンにしないで行って、その段階で説明できるものは説明しておく。そうすると短時間に終われる。質問や意見を事前にいただきながら、そういう流れを作っている。こちら事務局としてできるか。
畠山総務係長	例えば、今回の事務点検評価会議報告はできなかったが。
佐藤教育長	会議の開催が10月16日だったからできなかった。今回は前もって教育委員の皆さんに資料を渡して見てもらうというのは、それはそれでいいが、来ていただいたときに資料を見て説明すれば定例会では、議案についてはスムーズに行けるのでは。今日、議案説明して、次回に議決という形。なにか支障は生じるか。
畠山総務係長	各担当のところで準備できれば可能かと思う。
佐藤教育長	そうすると一気にはできないが、出来る所からやっていくということで事務局と進めて行きたい。急な提案であったがよろしく願います。
永井委員	結局、国立市の場合は新制度教育委員会に2年前に移行しているから、あの形でできている。うちの方はこの5月から新制度に変わったので、国立市のような運営はこれから出てくる問題の様に感じている。

佐藤教育長	<p>少しずつ変わって行ければ、定例教育委員会がスムーズに流れていく感じがする。</p>
佐藤委員	<p>定例委員会の日程ももう決まっていた。学校訪問も全部だった。我々委員の日程もあるだろうし、それまでちゃんとしておけということ。</p>
永井委員	<p>国立市では、担当の方の説明も、総合教育会議における市長のいろいろな発言、質問も、市長が弁が立つ方なので運営できていると。市長からあまりにもすごくどンドン質問や発言があったので、教育委員はたいへんであったと。教育委員がどのように適切に回答していくかということが、総合教育会議の中で出てくる。とても質の高い会議であった。教育委員も上手に回答して、見解を述べていた。</p>
佐藤教育長	<p>次回の定例教育委員会の後に、少し懇談の形を持ちたい。全部が全部あるわけではなく、出来る所からすこしずつやっていければと思う。</p> <p>それでは、本日の会議の予定が全て終了したので、以上をもって10月定例教育委員会を閉会する。</p>

(午後4時20分 閉会)